

皮膚・皮下腫瘍切除術 説明書・同意書

つばめ皮膚科 院長 久保田葉子

病名 _____

手術・検査名 皮膚腫瘍摘出術 ・ 皮膚生検

手術予約 可 ・ 不可 (_____ 月頃可能) 麻酔アレルギー 有 ・ 無

手術時間 _____ 分 金額 _____ 円

手術方法：局所麻酔の注射・塗り薬をした後、皮膚を直線あるいは紡錘形に切除し、縫合します。

術後の注意点：

- 1) 1週間後に抜糸します。抜糸後はテープを貼っていただきます。テープを貼る期間は状態により異なります。(1～6か月のことが多いです)
- 2) 顔の手術の場合、紫外線に当たると傷跡が目立ちやすくなりますので、テープを貼るか、日焼け止めを塗って紫外線に当てないようにして下さい。
- 3) 日焼けにかかわらず傷跡はしばらく目立つ場合があります。落ち着くまで半年～1年かかることもあります。ただし、最終的に傷跡が消えることはありません。
- 4) 病理組織検査の結果が悪性と診断された場合は、再手術（追加切除）が必要となる場合があります、この場合他院へご紹介することもあります。

合併症：

- 1) 出血・血腫…出血が続くと止血が必要になることがあります。また、血のかたまりができると傷が治りにくくなることがあります。お早めにご来院ください。
- 2) 感染…傷が治るまで時間がかかったり、傷跡が目立ったりしてしまいます。抗生剤の内服を追加することがあります。

- 3) 傷が開く…血腫や感染などにより、傷が開き、縫い直しが必要になる場合があります。
- 4) 痛み…麻酔が切れてしばらくすると傷が痛みます。痛み止めの内服で軽減することができます。数日間痛みが続くこともあります。
- 5) 傷跡のひきつれ…様々な要因により、傷跡がひきつれて残ってしまうことがあります。再手術が必要になる場合があります。
- 6) ケロイド・肥厚性瘢痕…傷跡が盛り上がって残ることがあります。ステロイドを注射することにより盛り上がり減らすことはできますが、複数回の処置が必要です。再手術を行うこともあります。
- 7) 色素沈着…最終的に傷跡の色が濃く残ってしまうことがあります。
- 8) しびれ…術後、傷跡の周囲にしびれや感覚の低下が残ることがあります。
- 9) 再発…再手術が必要です。
- 10) アナフィラキシーショック…ごくまれに、手術による局所麻酔や消毒により急激なアレルギー反応が起こり、致命傷になることがあります。

当院における診療情報（年齢、性別、病歴、治療経過、写真など）を学会、論文等の研究、ホームページなどの広告、他の患者様に参考として見せることなどに使用することを（同意します ・ 同意しません）。

個人情報の保護には厳重に配慮いたします。

上記について説明を受け、理解したうえで治療することに同意します。

年 月 日

本人住所

氏名 _____ 印

保証人（患者との関係： _____）

氏名 _____ 印